

インターンシップの受け入れを通して

「受入れ事業所：テレビ局」

1. はじめに

弊社は「スーパーローカル宣言」をモットーに、地域に密着した山口県NO. 1の放送局を目指して日々業務に取り組んでいます。開局45周年をむかえ、今まで以上に地域の皆様に貢献できる放送局を目指し、努力を続けています。

2. 実習の概要

- (i) 実施期間：平成27年8月11日～8月28日（うち各人5日間）
- (ii) 受入人数：大学生 計5名
- (iii) 受入部署：報道制作局報道部、報道制作局制作部
- (iv) 実習内容：1～4日目 夕方ニュース『〇〇編集局』の取材同行、オンエア見学
5日目 土曜朝の情報番組『週末〇〇〇〇家族』オンエア見学

3. 実習の内容・目的

主に報道制作局での業務を体験していただき、番組制作の過程を学んでいただいています。番組編成上の都合で日程を変更することもあります。実習生の皆様には5日間の実習で、夕方のニュース番組『〇〇編集局』（月～金：18時15分～19時00分）と土曜朝の情報番組『週末〇〇〇〇家族』（土：9時25分～10時23分）の放送に携わっていただいています。

実習は、主に以下の3つの点を学んでいただくことを目的としています。

- ①ニュース番組と情報番組の制作・放送過程の違い
- ②番組を制作するにあたってどのような仕事があるか
- ③人に物事を伝える難しさとテクニックを学ぶ

4. 実習生からの声

- ・人に何かを伝えるには、伝えようとしていることについて理解を深めることが重要だと知った
- ・一口にテレビ局の仕事といっても様々な仕事があることが分かった
- ・一つの番組をみんなで作り上げていく達成感があった
- ・取材を通して新たな山口の発見があった



5. おわりに

インターンシップでは報道制作局の仕事を中心に学んでいただいています。テレビ局には他にもさまざまな仕事があります。テレビ局というと画面に映る華やかな世界をイメージされがちですが、その裏では多くの人が必死になって業務に取り組んでいます。これから就職活動をされる実習生の皆様が企業を選ぶ際、イメージに捉われずに本質を見極める努力をしてほしいと考えています。今回参加してくださった実習生の皆様にとって、弊社のインターンシップがその一助となれば幸いです。

<実施事業所 報告>

コミュニケーション能力の向上を目指して

「受入れ事業所：コミュニティ放送局」

弊社では、地域貢献や自社のPRも兼ねて、毎年中学生から大学生・専修学校生の職場体験受け入れを行っています。また、講師派遣の要請などがあった場合は出来る限り対応するよう努めています。

お越しいただいた学生の皆さんには、放送業務の見学、番組出演、CM制作・収録などの体験を、大学生・専修学生には番組企画にも取り組んでいただき、最終日にはご自身で企画したコーナーを担当していただいています。

放送エリアの狭いコミュニティFM放送局ではありますが、放送メディアという特性のためか、中学生などは、声優になりたいという夢を持つ生徒さんが多く訪れます。実際に体験した学生の皆さんからは「貴重な体験ができた」「ラジオに興味を持つようになった」「仕事に対する誇りや責任感を感じることが出来た」という声をいただきました。

ラジオは音声だけで情報を伝えるメディアであり、乾電池などで駆動する本体が安価で手に入るなどの特徴から、災害時に役立つメディアとして注目されています。特にコミュニティFM放送局は、地域に根差した情報媒体として大きな責任を担っていると考えます。体験する学生の皆さんには、音声だけで情報を伝える難しさと楽しさ、情報媒体としての責任感を少しでも感じていただければと思っています。

中学校や高校の先生方にお話を伺うと「コミュニケーション能力が課題」と聞くことが多くあります。恥ずかしいという思いから、自身の名前をはっきり言わない、あいさつや返事をしっかりしないという学生さんも見受けられます。

職場体験にいらした学生さんに対してや講演の時にお話ししているのは、「はっきり話すことが出来ないことで損をしてほしくない」ということです。笑顔や服装だけでなく、声も第一印象の大切な要素の一つ。はっきりした声ではつらつと挨拶や返事が出来ることは、どんな職業であっても大切なことです。

ラジオというメディアを通して、発声や滑舌について考えていただき、進路を考えるときの一助になればと思っています。

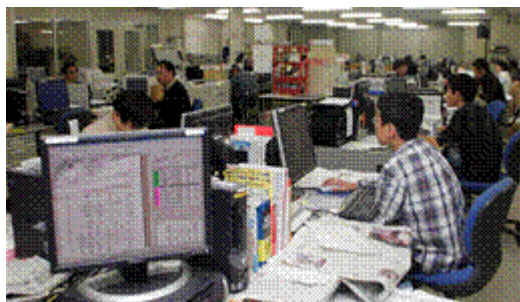
インターンシップは短期間ではありますが、弊社での体験を通して学んでいただいたことが、学生の皆さんの職業選びや会社選びに少しでも役立てば大変幸せです。

<実施事業所 報告>

若い人材の可能性を

広げる場に

「受入れ事業所：新聞社」



<編集制作センター>

当社は下関市に本社を構え、山口県唯一の県紙「山口新聞」、水産食品情報の全国紙「みなと新聞」などを発行し、最新鋭の印刷設備を有する総合情報企業グループです。このうち、毎年インターンシップを受け入れている山口新聞は県内外に15の支社局を置き、県民生活に密着したきめ細かな地域ニュースを届けるとともに、共同通信と特約し国内外の政治、経済、社会の動きについても日々伝えています。近年は特に国体やインターハイ、県高校総体をはじめとする山口スポーツに力を入れています。また子どもたちに新聞に親しんでもらう「やまぐちキッズTimes」、きらり輝くシニア世代を紹介する「シニア&健康のページ」など幅広い視点から情報を発信し、読者に喜んでいただける紙面づくりに取り組んでいます。

〈実習内容〉

記者に同行しての取材研修から、自社記事と共同通信の配信記事が一同に集まる編集制作センターでの編集・整理制作・校閲研修、最新鋭のオフセット輪転機を備えた印刷センター見学まで、新聞制作の全工程を体験できるカリキュラムを5日間にわたって実施しています。

〈学生の声〉

- ・勤務している皆さんの『読者のために』という言葉が特に印象に残った。顧客のためにとという考えが当たり前の社会人と学生との意識の差を感じた。
- ・伝えることの大切さを痛感した。インターネットが発達し、いつでもどこでも新しい情報を知ることができる時代だからこそ紙面で確実に情報を伝える新聞の存在の大きさを強く感じた。
- ・地方新聞独自の制作方法やスタンスを学ぶことができ、今後の進路を考える上で大いに影響を受けた。社会人として尊敬できる心づくしをたくさんいただいた。

〈現場から〉

新聞作りの現場では、目に見えない「情報」という素材を取材記者が形ある「記事」にし、整理記者が見出しをつけレイアウトして紙面を作り上げ、それらが印刷され初めて商品として完成します。正確さや迅速さが最大限に求められる一方で、個々の感性や創造性があますところなく発揮されるユニークな現場でもあります。

当社にとって、研修生の受け入れは地域社会への貢献、若者に対する就業機会の提供とともに、スタッフ自身が業務の在り方、責務を再確認する重要な機会ととらえています。同時に、研修を通じて若い人材が自らの可能性を広げ、未来を切り開く一つのきっかけになればと願っています。

<実施事業所 報告>

インターンシップでの 社会人基礎力再確認

「受入れ事業所：情報システム業」



<本社社屋>

◆ はじめに

当社は、1983年設立の情報処理サービス企業です。ソフトウェアの開発を中心にネットワークビジネス、システム運用管理、技術解析サービスによる総合力で、お客様の高度情報化ビジネスの実現に寄与しています。

インターンシップの受入は、学生の皆様にIT業界の実務について多少なりとも参考になればと2005年から毎年実施しています。

◆ 受入目的

- ・次世代育成支援対策推進に基づくインターンシップの就業体験機会の提供。
- ・職業選択と就職後の社会への適合性を養う。
- ・地域社会貢献。

◆ 実施概要

- <実施期間> 8月22日 ~ 9月16日 各一週間(5日)を4ブロックに分割
- <受入部門> システム開発部門 8名
システム運用管理部門 2名
- <実習内容> システム開発の業務体験及び、サーバー構築体験 他

今回は、上記実習体験とは別にインターンシップ初日と最終日に「社会人基礎力評価シート」を記入してもらい、学生の皆さんが日頃から考えている社会人としての基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)について、就業体験前後での「ギャップ」を確認してもらいました。また、当社教育担当者にも就業体験後に同一シートにて評価を行い、最終日には意見交換会を行うことで自分の長短所の再確認や、新たな目標設定につながったのではないかと思います。

◆ インターンシップを終えて

インターンシップに参加された学生の皆さんは、一週間という短い期間ではありましたが学生生活とは一味違った体験ができたのではないのでしょうか。この体験をこれからの学生生活の過ごし方や、就職活動を行う上での一つのヒントとなれば幸いに思います。

最後になりますが、皆さんのこれからの活躍に期待致します。

<実施事業所 報告>

働くことの楽しさと厳しさ



「受入れ事業所：情報システム業」



弊社は、情報システム会社ですが、事業内容は、コンピュータソフトウェアの設計、プログラムの開発および販売、コンピュータネットワークの設置・施工・保守、半導体装置のメンテナンスおよび部品販売など多岐に渡ります。お客様のニーズにお応えできるよう、日々、技術の向上に励んでおります。

インターンシップは、2008年より受入れを始めて以来、学生の受入を行っております。毎年、数名の受入ですが、学生の皆様には、技術力に関して他社には負けないという当社の技術力にかける情熱を知っていただきたく、受入を行っております。

1. 受入目的

- ・ 地域社会への貢献
- ・ 当社をより多くの人に知ってもらうためのPR活動

2. 実施概要

- <実施期間> 8月16日～8月27日 (10日間)
- <受入学生> 工業大学：情報工学部 1名
高等専門学校：各学科 3名
- <受入部署> システム事業部



3. 実習内容はシステム開発の業務体験

今回は、初日のオリエンテーション後、最初の一週間で業務に慣れて頂く為に課題を行って頂き、後の一週間でシステム開発に参加して頂きました。また、実習の最終日には実習期間の感想を受入部署の全員の前で発表して頂きました。

システム開発の楽しさは、「ものづくり」の楽しさに通じるものがあります。それも、自分の作ったものの成果を即座に目に見える形で確認できます。これは他では味わえない経験だと思います。

4. 学生の皆様へ

2週間という短い期間の中で業務を覚えて、実際に作業を行って頂くことは大変だと思いますが、インターンシップを通して、働くことの楽しさと厳しさを知って頂ければと思います。

開発したシステムを社会の皆様に使っていただけることも大きな喜びです。もちろん客商売ですから、楽しいことばかりではありません。最後になりましたが、学生の皆様には、ぜひ働くことの楽しさと厳しさを知って頂き、インターンシップの経験を、今後の学生生活や就職活動に生かして頂ければと思います。

インターンシップを通じて の社会体験



「受入れ事業所：情報システム業」

◆ はじめに

当社は、F・・・・Way をベースに、技術力の向上、得意分野の拡大、経営基盤強化を図るとともに、「お客様本位」「社会との調和」「社員重視」を念頭に、皆様から信頼される会社をめざしています。

◆ 受入目的

当社では、毎年数名のインターンシップを受け入れています。地域貢献の一環という意味もありますが、学生の皆さんは、大学では得る事の出来ない職場体験の場です。

これからの人生を過ごす上で、大きな割合を占めることになる「職業生活」は、企業研究や就職活動だけでは、皆さんが適性或大学で学んだことを企業の中でどのように活かすことができるかを明確に実感できないと思います。

そこで、実際の業務を体験していただく事により、働く事の面白さや厳しさを少しでも実感していただき、これからの就職活動に役立てて欲しいと思います。

◆ 実習内容

インターンシップは職場体験であると考えています。研修期間は1週間～3週間と期間は様々ですが、職場の雰囲気やSEの業務の流れを少しでも体験していただく為に、SEの現業部門である、医療ソリューション部と自治体ソリューション部にて、実際の業務の手伝いを行っていただいています。大学等、机上で学ばれた知識や技術が実際にどの様に生かされているか、少しでも感じていただければと思います。

また、技術的な部分以外にも、様々な活動を体験していただいています。例えば、環境活動の取り組みの一つである「生物多様性への取り組み」の中で、社屋周辺地域のゴミ拾いを体験された方もおられます。

◆ 学生への期待

私たち企業は、常に改善・効率化を図らなければなりません。インターンシップに来られた方の中には、疑問・質問をしたいけれども、出来ない方がおられますが、皆さんの想像力豊かでバイタリテイに満ち溢れているチャレンジ精神を持たれているのに、うち秘めては勿体ないです。積極的に、疑問・質問をぶつけていただければと感じています。

これからの就職活動でも、自己PRとして、前面に出していただければと願っています。皆さんが持たれている力を発揮する事が出来れば、これからの就職活動が優位に進める事が出来ると思います。

皆さんのこれからの活躍に期待しています。